

八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議

資	料	3
第 5 回	会 議	資 料
令 和 5 年	8 月 8 日	

これまでの提言に関する意見内容とりまとめ

総合政策部 政策推進課





- ・提言の中で令和5年度に実施できていない取組について議論をしていくのも良いのでは。
- ・若者にもっと焦点をあて、若者が集まるまちについて考えていくのも良いのでは。
- ・育てられる側の小・中・高校生のところを大事。
- ・若い世代が街に来たくなるようなことを考えていく必要がある。
- ・前回の提言のテーマがよかったので、これを継続した上で新しいことを考えてみても良いのでは。
- ・地元の大学を志望して入学した学生が、愛着のある地元で就職が叶うようになれば良い。
- ・大人になるまでに自分に自信を持って社会に出ていけるように、子どもの頃から何か対策がとれれば良い。
- ・子どもを預けられる施設を民間ではなく市として造ってはいかがか。
- ・子どもを増やす観点から、子どもが遊びに行ける場所やデートする場所を増やすなど、市として何か取組ができるのではないか。
- ・公共交通機関がもっと活発に動くようになれば、子どもを持つ親も「ハチカ」でバスに乗りやすくなるのでは。
- ・インパクトがあって八戸市では特に応援されていると思える子育て支援をどんどんやれば、子どもを産んで育てたくなるのでは。



- ・中心市街地の活性化については、建物整備よりその時のニーズに合った形でできるイベントを多くした方が良いのでは。
- ・移動販売車をうまく活用してイベントを開催をする。
- ・シンガポールの公園のように、大人も子どもも一緒になって体を動かせる場所があれば良い。
- ・八戸と周辺の町村がもっと連携していければ良い。
- ・山口出身の学生が青森県一周をして好きになったように、外から人を呼んで来て、八戸に住んでいる若者と関わることは大きい。
- ・中だけの狭い視点ではなく、外と関わることで大きな視点を持てる機会があれば良い。
- ・市民向けに、移住者の意見を聞いて、自分のまちの良さを再認識する機会があっても良い。
- ・移住者に空き家を安く提供することも良いのでは。
- ・政策の柱1の2つ目「八戸らしい体験に満ちた18年で、八戸を心に刻んでもらう」は、八戸らしさ（例えばディープな地元等）といっても広がりがあり抽象的なので、この部分を分かりやすく伝えるために、もう少し具体化しても良いのでは。
- ・行政は支援に回り、民間企業や高校生・大学生を巻き込む形でできることを提言しても良いのでは。



- ・昨年の提言でまだ実現できていないところを掘り下げていくのが良いのでは。
- ・昨年の提言はいいキャッチコピーがあったので、それをベースに新しいところを生み出して枝葉を広げていく形が良いのでは。
- ・中心街のイベントは冬場が少なくなりがちなので、ワンフロアをただ走り回れるところがあったり、預かり保育を中心街に作ることで、中心街に行くことを日常にしてしまうというのも良いのでは。
- ・中・高校生がどういうものを求めているかニーズを聞いていきたい。
- ・このまちの魅力は八戸らしさだと思うので、様々なニーズを郷土への愛着へつなげるような、敷居が低くても八戸の文化に触れる仕組みのようなものがあれば良いのでは。
- ・八戸の中心街の賑わいはポテンシャルを持っているので、アクセスの問題も含め、若者に来てもらえるような楽しそうなことができれば良い。
- ・市長に提言するものだが、市民に向けて提言する流れがあっても良いのでは。
- ・東京など外から人を呼ぶ、県内との比較をするような、外と八戸という視点もある。
- ・客を細かく、本当に声をかけたい人にかけてもらえるというような細かい提言になっても良いのでは。



- ・高校生以下に八戸市への愛着を持ってもらうような政策をやっていければ良い。その手段として、中心街の活用や交通の利便性などをテーマにするのも良いかと思う。
- ・若者に着目するのが良いと思うが、着目する視点として、八戸への愛着を向けることなのか、大学卒業後に戻ってきたいと思える環境づくりなのか、色々と考えていきたい。
- ・中高生辺りが、考える力というのが伸びてくるころだと思うので、そこにフォーカスしたい。
- ・やはり、中高生が良いターゲットだと思う。アンケートは高校生も対象にしても大丈夫だと思う。
- ・大学とかで一度県外へ出てしまうと、視野が広がり外への志向になるので、中学生辺りから地域の魅力に目を向ける教育ができれば良い。
- ・中高生が県外へ出て行った後でも、戻ってきたいと思える、地元への思いを繋ぎとめる何かが必要。
- ・安心して楽しく子育てがしやすい施設があれば、中高生たちが大人になった時に1つの魅力になるのではないかな。
- ・若年層は、雇用対策を重視しているデータがあるので、雇用の側面は外せない視点だと思う。
- ・教育対策について、掘り下げて具体化するのも良い。あとは、八戸市では、選択肢の少なさが課題だと思うので、それもキーワードの1つになるのではないかなと思う。



- ・中高生は、何でも出来るようになり、結構放置されがちな年代であるので、ここは補強するところかもしれない。
- ・わざわざ八戸に愛着を持たせるよりも、単純に八戸で楽しく過ごした実感があれば、八戸を好きになるのでは。放置されがちな中高生とその親に対して、心を動かせる政策ができれば面白いと思う。
- ・中高生と親とのパイプは最近では課題となっている。社会教育、地域教育が充実していることは、その地域で暮らすことの魅力に直結する。
- ・中学生から自己肯定感が急激に落ち始めるということで、親の方から勝手に距離を置いている部分もあり、それが認識の違いを生んでいるかもしれない。自分から寄り添っていくことも必要では。
- ・最近、高校生を見ていて、アクティブに自分で考えて自ら積極的に情報を得る子と、スマホとか手元の世界でとどまってしまう子と、二極化が見られるので、アンケートの中からそのような背景を捉えることができれば良い。
- ・自分が高校生の頃と比べて、今の高校生は、考える力があるのに、社会と接する機会がないところがあるので、高校生へのフォーカスは良い。
- ・親は、子どもに対して完璧に100%エネルギーを注ぎ切れていない、後ろめたさのようなものを感じていると思うので、そこへの提言であれば市民の皆さんとも共感できそうな気がするし、親が頑張る態度を見せられたら、子どもも親の話に耳を傾けるようになるのでは。



■ (第4回会議) 提言内容について

- ・行政と教育委員会との連携により、小・中学生に、企業や地域を知る機会を提供する。高校生は、探求により課題解決につなげてもらう。(学校への負担はかけないようにする)
- ・明るい未来を描いている子どもをより前向きに持っていけるようにする。
- ・人の魅力を感じられるような、地域教育や社会教育が広くできるような場づくり。
- ・美術館や博物館など、子どもたちがワクワクするような企画をもっと数多く日常的にやっても良い。
- ・子どもたちに主体的に企画に加わってもらう。
- ・八戸がキッズニアになる。
- ・親子を1回引き離し、子から親を変えるアプローチ。
- ・八戸にいる高3までの8年間で、親子で将来を考えていくことを、どのようにサポートしていくか。
- ・美術館など、子どもたちで企画をさせて子どもたちに運営させる。子どもたちに政治参加させる。
- ・バイトを解禁し、地域に触れる機会とする。家出に対して支援する。



■ (第4回会議後提出) 提言内容について

- ・職場体験、インターンシップ、社会科見学、地域探求、祭りへの参加、イベントへの参加など、政策として行政が支援し、地域社会で協力できる体制を構築する。
- ・小学5年生に「(仮称) 八戸キャリアノート」を配付し、高校3年生までの8年間、記録できるようなツールがあれば良い。
- ・生徒たちが地域への理解を深め、地域の魅力を話せるようになれば、保護者にとっても良い影響になる。
- ・八戸の中高生が将来の夢を思い描くのに十分な情報提供、体験機会の提供、勉強スペースの整備などのサポートが必要。
- ・家庭の事情等で将来の夢が思い描けない、叶えられない中高生の相談相手の確保。
- ・市や各企業・団体が実施する八戸ならではの取組を中高生が知る・体験する機会の創出。
- ・はっちや市の施設に、市民同士(子供と大人のイメージ)が匿名でお悩み相談的な交流ができる掲示板をつくる。
- ・町内会や公民館の活用やDXなど、地域で子どもを育てられるようなコミュニティの確立。
- ・美術館、博物館、中心街活性化など、まちづくりのあらゆる企画に中高生からアイデアをもらう。
- ・中高生目線の交通手段の整備。